

杉村病院発
地域広報誌

No.5

第5号

出会い in 杉村病院

杉村病院NST(栄養サポートチーム)の活動を開始しました

杉村病院 外科消化器科 藤田 博 医師



平成十八年十二月一日より杉村病院NST(栄養サポートチーム)を設立しました。NSTとは患者様の栄養状態を医療スタッフが協力して管理するチームのことです。NSTの重要性は近年強く認識されるようになり、急速に全国の病院に広がりつつあります。

しかし、患者様にとってははどうでしょうか？
高齢の入院患者様は、太っていてダイエットが必要という方は少なく、むしろ非常に痩せた方が多くみうけられます。現代において栄養不良が大きな問題となっているのです。

高齢で、脳血管障害、心・呼吸器疾患、認知症などの多様な基礎疾患を抱えると、消耗が大きくなり、十分な食事が摂れなくなり、また、老人施設や病院に長期間滞在しているも、偏食や、体調不良で食事が入らないことが重なり、少しずつ栄養が不足してしまいがちです。

栄養不良となった患者様が、急病に罹患した場合、基礎体力、免疫力が低下しているため、なかなか容易には治りません。検査・治療が長期化すると、さらに体力が低下して合併症を発生します。治療しても肥立ちが悪く、以前より衰弱しているため、また他の病気に罹患してしまいます。

こうした栄養障害による悪循環を断ち切るのがNSTの重要な役割の一つです。NSTでは、栄養障害のある患者様をいち早く発見し、栄養療法を工夫して、患者様に栄養と体力を付け、治療をサポートする役割を担います。

当院では、個々の患者様に対して日常的な栄養評価を行うとともに、毎週一回の回診、隔週での症例検討会と勉強会を行っています。緊急時のコンサルトも随時受け付けております。症例検討会・勉強会は公開していませんので、興味のある方は是非参加してください。



医療法人 杉村会



デイハウス
カスタネット

所長 (看護師) 田代まゆみ
住所: 熊本市弥生町1619番
電話: 096-371-2677

地域密着型サービス指定認知症対応型通所介護事業所

デイハウス『カスタネット』～平成19年1月15日オープンご案内

デイハウス『カスタネット』は小規模で居心地のよい家庭的な雰囲気の中、利用者個人の意思を尊重し、その人の立場に立ったサービスを提供します。住み慣れた地域で、笑顔と温もりのなか、いきいきと共に暮らしていきましょう。

＊ご利用いただける方＊

介護認定の「要支援1・2」「要介護1～5」の認知症の方

＊ご利用方法＊

担当のケアマネージャー、最寄の地域包括支援センター、保健福祉センターにご相談下さい。当事業所でも直接ご相談に応じます。

新入職員紹介

七月一日以降の新職員の紹介
(入社日付順)



後藤 仁志さん
介護職員 5病棟

この仕事は患者様と接して下さる事が楽しくてもやりがいがあります。母親も医療関係の仕事なので、将来僕も医療関係の資格を取りたいと思います。

佐々木 奈美さん
介護職員 東病棟



杉村病院に勤め出して五ヶ月が過ぎて、仕事の内容にも慣れてきました。まだ分からないことが一杯ありますが、宜しくお願いします。



石本 好孝さん
介護職員 3病棟

姉の紹介で杉村病院に就職しました。看護師を目指していましたが、病院で働く事はとても勉強になります。最初は苦労しましたが今は大分慣れてやりがいを感じながら頑張っています。この病院で経験し学んだ事を活かして看護師になっても頑張りたいと思います。

金谷 絢子さん
臨床検査技師
検査室



何とかこの仕事にも慣れてきたかなという所ですが、緊急検査になるとまだ少しあせってしまいます。今年からは睡眠脳波という新しい仕事も増え、周りのスタッフに協力をお願いします。周りの事もあるかもしれませんが頑張りますので宜しくお願いします。



秋吉 洋美さん
看護師 3病棟

家の都合で日勤ができない為、夜勤専従でお世話になっております。この年齢での転職は不安だらけでしたが、楽しく働かせてもらっています。室井滋のエッセイ集で笑い転げるのがストレス解消法です。

吉村 絹子さん
介護職員 3病棟



入社して四ヶ月になります。人と触れ合うのが好きで介護の仕事を選びました。これからも患者様に関わり喜んでもらえる介護をしていきたいと思っております。



山本 由美さん
介護職員 5病棟

「人と関わる仕事がしたい」とこの仕事を始め、何年かたった後、もっと介護の勉強がしたいと思いい、八月からこちらでお世話になっております。あつという間の四ヶ月でしたが、いろんな事を学ばせてもらっています。今はこの仕事を一生懸命頑張ろうと思っております。

飯坂 里美さん
看護師 3病棟



子供の体調の都合で人吉から熊本へ出て参りました。まだまだスタッフの足を引っ張っている状態ですが、一日も早く皆様と肩を並べて仕事ができる様に一生懸命頑張ります。



深水 加奈さん
看護師 6病棟

まだまだ看護師として未熟な部分が多々ありますが、毎日いろんな事を学ば

せて頂いています。慣れるまで大変でしたが、今は楽しく仕事をさせて頂いております。

益崎 美子さん
介護職員 3病棟



介護の仕事に興味があり、義母の紹介を経て働き始めて三ヶ月になります。思っていた以上に大変な仕事ですが、とてもやりがいがあると思います。先輩方々の指導のもと頑張ります。



岩上 綾さん
調理助手 栄養部

入った頃は覚えることが沢山あり、仕事の内容も難しそうで大変でしたが、丁寧に教えて頂いて、仕事も患者さんの食事内容も段々と分るようになりました。ミスをしたくないように一生懸命頑張りたいと思います。

川寄 美子さん
看護師 6病棟



四月から派遣でお世話になっていますが、働きやすい環境だったので、十月から正職員として働く事になりました。分らないことも多く皆様にご迷惑をかけますが、早く仕事を覚えられよう頑張ります。



磯野 なぎささん
看護師 6病棟

今年の五月末より派遣として勤務しておりますが、スタッフの皆様方が暖かく接して下さり、働きやすい職場と思いい常勤登用していただくことにしました。今後とも頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

夢への第一歩

アメリカ遠征に参加して

リハビリテーション部 前田 則浩

左から二人目前田、右端新城



二〇〇六年七月二十九日から八月四日にかけて、『グラントソフトボール』という視覚障害者が行う球技の普及活動のため、アメリカのケンタッキー州に行ってきました。グラントソフトボールとは四十五年ほど前に日本で生れた競技で、視力が〇・三未満の弱視選手六名と全盲選手四名で行い、毎年、国体や全日本選手権を目指し、日本全国で盛んに行われています。

しかし、全世界ではまだまだ競技人口が少ないため、今回野球大国のアメリカ、それも視覚障害者の活動が盛んであるケンタッキー州を訪問し、ルールやこの競技にかける思い・願いを伝えました。また、日本全国より選ばれた選手達による模擬試合を行い私はその中で監督として、同職員である新城は選手として参加しました。帰国後の話では、この競技が実際の野球そのものと思えるほどの完成度であったため、反響は非常に大きく、アメリカ全土に広めていきたいとのことでした。

今後、アメリカから世界へ浸透し、この競技がパラリンピックの正式競技となることを目指して日々活動していきたいと思っております。熊本でも毎年大会を開催しており、再来年には全日本選手権を開催する予定です。興味のある方は是非一度観戦にお越しください。

薬局で「す」

スタッフ紹介

（ネットと一緒に）

薬剤部長

田中 久美子（薬剤師）



歳、避妊手術後体重急増、余りジャンプしなくなりまして。仲良く互いをなめ合っているかと思うと、バトルを始め追いかけっこしています。



赤崎 まなみ

（調剤助手）

我が家の三女？
そらです。メス
なのに散歩中
おしっこポーズ
は後ろ足を高々と上げてオス犬のよう。毛並みも顔つきもゴールデンレトリバーそのものですが、真つ黒なそらはとても綺麗な雑種です。体重三三キロの忠犬そら公はフレンドリーな笑顔を振りまいて、今日も風爽と散歩に出かけます。ワン！



白水 貴子

（主任薬剤師）



色がミルク色なので名前はミルク。私に子供が二人生まれてからは主人がお世話係。主人が帰ると車の音が聞えた時から大騒ぎですが私には無関心を決め込んでます。

広坂 薫

（調剤助手）



で、膝の上にチョココンと静かに座る休日には南阿蘇までドライブに行きたいと思っています。

今回は皆様方が一番よく飲んでいらっしゃる錠剤についてお話しまし
す。
内服薬には散剤、顆粒剤、錠剤、カプセル剤、液剤など様々な剤形がありますが、中でも「錠剤」には色々な工夫が凝らされています。錠剤は薬を単に圧縮成型したものではなく、何種類かの薬を層状にしたり有核状にしたり、種々の製剤法が用いられています。また剤皮によって素錠（裸錠）糖衣錠、フィルムコーティング

一見同じに見える錠剤も、例えば糖衣錠の中に徐放（ゆっくり溶出して効果を現す）顆粒が含まれていたり、腸溶性の核が入っている場合があります。だから、飲みかたによっては噛み砕いたりせず、医師が飲んでもおられる薬は、どんな製剤技術のたまものなのか、研究してみるのも面白いかもしれません。



私たちのうえファームは、いろいろなお野菜と合鴨米を無農薬・減農薬で育てております。体への安全性を考え、無農薬・減農薬にこだわりながら、安心、安全で新鮮なお野菜をお届けしたいと頑張っています。

合鴨米は田植えの二週間後位に田んぼへ合鴨を放します。合鴨が田んぼの中の雑草や害虫を食べ糞が肥料となりますので、農薬や化学肥料を使用しなくても稲は丈夫に育ちます。

合鴨米を作り始めて6年が経ちますが、学ばなければならぬ所も多々あり試行錯誤の連続です。しかし自然の中で働ける喜びを感じながら、愛情をたっぷり込めて育てました。このお野菜と合鴨米で患者様のお体とお心が明るくなりますように願っております。

お世話になってます いのうえファーム

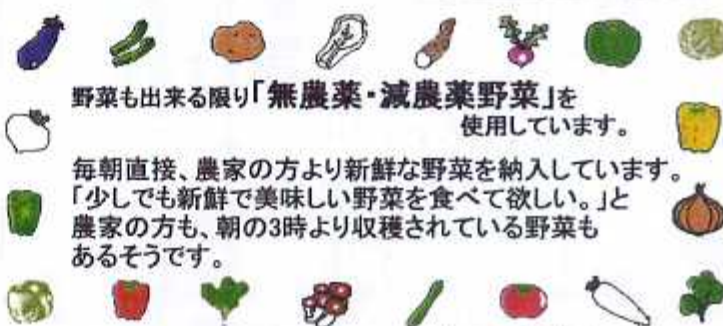
当院のお米は「合鴨米」を使用しています

入院患者様に、安心して美味しい食事を楽しんで頂くために、完全無農薬有機栽培のお米を使用しています。一味違ったおいしいご飯(お粥)を是非、ご賞味下さい。

～合鴨米～
合鴨による栽培で、継続して3年以上除草剤をはじめ農薬や化学肥料を一切使用していない田んぼでのみ作られたお米です。



病院での使用 県内初！
★H18年12月4日～スタート



野菜も出来る限り「無農薬・減農薬野菜」を使用しています。

毎朝直接、農家の方より新鮮な野菜を納入しています。「少しでも新鮮で美味しい野菜を食べて欲しい。」と農家の方も、朝の3時より収穫されている野菜もあるそうです。



まちの名医紹介 第五回

医療法人永吉会 たかはし歯科医院 理事長 高橋 裕輔 先生
ノゾミ歯科医院

杉村病院、老健施設「のぞみ」に隣接する「ノゾミ歯科」の理事長でいらつしやる高橋裕輔先生に今回はインタビューいたしました。

Q 患者様の栄養状態、特に食べるという事の重要性が見直されている今、良い歯の状態を保つという事は、とても大切な事です。ノゾミ歯科には入院患者様や入所の方々への歯の治療を快く引き受けていただき感謝しております。
先生が治療されるにあたって一番心掛けていらつしやることは何でしょうか？

治療の痛みを感じないようにしながら、早く患者様の痛みを取ってあげること。早く普通の生活ができる状態にしてあげるようにと思っております。

Q 歯の治療に差し障りがあるような疾患があったり、薬を飲んでいたりする患者様も多いので、若い健康な患者様を診る以上に心労も多いのではないのでしょうか？

確かに色々な病気に罹患されているので、体調を考慮しながら診ていくのが難しいですね。介護を受けておられる患者様が多いので、介護する方もされる方もお互いのストレスがかからないよう、口腔内の清掃しやすい状態にするよう心掛けています。



Q 病院でも入院患者様の場合は、必ず主治医に報告し、歯科から薬が出た場合は内容の報告をします。外来患者様の場合がなかなか難しいようがある場合は、窓口での服薬指導の時に指導していただければと思います。ところで、いつもお忙しい先生のストレス解消法は？

ストレス解消法ですか？何をしてもストレスがかかりますね。でも、患者様が綺麗になつた喜びで、自分でも満足するいく治療をさせていたいた時が、何よりのストレス解消ですね。

Q 休日はどうにお過ごしですか？

ときどき、山の中、阿蘇が多いですが、のんびりドライブしています。

Q 仕事のストレスは仕事で解消が高橋先生はどのようにお話しを聞かせていただいていたので有難うございました。これからも難しい患者様方をたくさんお願いすると思いが、宜しくお願いします。



インフルエンザの話

回答者 杉村病院 小児科 宮野 滋 医師

毎年、冬になるとインフルエンザが流行します。インフルエンザは、ウイルスで起る風邪症候群の中でも特に強い症状を示すので特別扱いされています。

最近、新型インフルエンザの脅威が新聞やテレビで特集されています。一九一八年にスペイン風邪というインフルエンザが世界的に大流行して、全世界で二千万人以上の人が亡くなつてしまいました。この死者は、同じ時期に起つた第一次世界大戦の死者よりも多かったのです。

このスペイン風邪のような強力な病原性を持ったインフルエンザが、また流行するのではないかと、という可能性があると聞かれています。

鳥インフルエンザが数年前から東南アジアで人間に感染して死亡するという事が数十例起きています。鳥インフルエンザが人間に感染することは「種の壁」を越えることが難しいので本来なら起らないのです。それなのに鳥インフルエンザが人間に感染するのは、突然変異が原因だと言われています。鳥インフルエンザが人間に感染して発病すると死亡率は、七五%以上と高く、極めて危険な病気です。そのような突然変異が起きれば、スペイン風邪のような世



界的な大流行となり、莫大な数の死者を出すでしょう。

新型インフルエンザはまだ発生していませんが、今、そこにあるインフルエンザを予防するためには、まずワクチンによる予防、うがいや手洗いの励行、早めの受診が大切です。当院もインフルエンザ治療薬「タミフル」(早いほど効果が出ます)を常備して治療しております。

編集後記

二〇〇七年の暮開けに第五号をお届け致します。今号では、病院は、時代のニーズに答える事は勿論、利用する方たちに様々な角度から寄り添いながら、変化しているのだという事を初めて知りました。病気を治すことを前提にして「人を治す」事の取り組みが始まっているように感じました。ペットと一緒に職員さんの表情はとも幸せそうですね！寒さが増すこれからの時期しっかりとインフルエンザの予防も心掛けましょう。

伊藤 裕子

